

部活と両立して全国レベルの学力をつけるには。



慶應進学会の

部活に関する考え方

部活は、充実した高校生活を構成する柱の一つであり、人間として成長するための大きな糧(かて)となるものです。勉強を忘れず、両立させられれば最高です。

2008年4月、高2の新生が部活の事で相談に来ました。彼女は、体育会系の部活に所属しており、超ハードなスケジュールです。部員の自主練習を含め、活動は正月と定期テスト前を除き毎日。平日は午後8時までで、帰宅は9時過ぎ。休日は、遠くの体育館に行き、午後9時まで、帰宅は11時。長期休暇中は合宿と午後8時までの練習。部活の信じられないハードスケジュールは、高3の1月、センター試験1週間前まで続く。そして彼女の希望は、国立大学に現役で合格し、将来公認会計士になりたいということ。彼女の現在の成績は、クラスで1位。ただし、高校の進学実績で過去彼女の志望する国立大学への進学者は0。指定校推薦での上位校は、法政大学1名。(それ以下は多数。)

この時、同じ部屋にいた浪人コースの新生(都立最上位グループの高校出身)に、どう思うか聞いたところ、友人で高3の12月まで部活をやっていて、彼女の希望する一橋大学に現役で合格した生徒がいるとのこと。よく聞いてみると、部活は週4日、午後6時まで。彼は高1の初めから部活のある平日でも、細かい時間を有効活用して必ず5時間以上勉強していたそうです。彼の高校は、浪人を含め国公立早慶上智レベルに100人以上コンスタントに合格者をだしています。

物理的な時間は、誰にとっても同じように過ぎていきます。部活と勉強。それも、校内ローカルではなく全国レベルの学力。しっかりした計画のもとに頑張らなくちゃね。



将来の目標は何ですか？

新生の話をも、極端なハードスケジュール部活の例として挙げてみました。

もちろん、部活を通してやれば出来ると言う自信をつけることは可能です。しかし、学力で勝負しようとするなら、話は違います。いくら能力のある生徒でも、全国レベルでの高い学力をつけるには、物理的に最低限必要な学習時間というものがあります。学生の仕事は勉強です本末転倒してはいけません。

特に、将来の職業選択の関係から国公立大学を目指す人。たとえば、医学部歯学部志望者。国公立大学はどの学部でも同一学費、年額60万円弱。全額奨学金で賄えます。私立との差額は数千万円。学費の問題で夢を捨てざるをえない場合だってあるんですよ。

学校差も考えましょう。

中学時代は部活部活で勉強せず、成績も最悪でした。でも、入試が終わり、高校生になったらいかかわらず部活部活で試験前チョコチョコとやるだけなんです、成績は学年でもトップクラスなんです。ただ、全国模試には弱いらしくまったく点数が取れず、偏差値は悪いですね。

さすがに最近はありませんが、20年前には時々聞いた話です。高校は学力別集団なわけです。

高校は学力グループ別集団です。

大学入試は全国戦。学校別学力差をしっかりと考える必要があります。中高一貫トップ進学校の生徒も、一般高校の生徒も、同じ日に大学入試を受けるわけです。

学生の仕事は勉強です。部活を言い訳にしてはいけません。

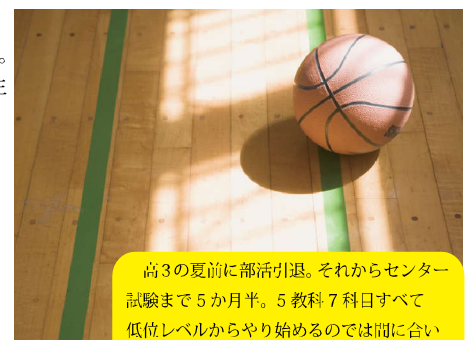
部活は誰でもやっています。部活の延長が、将来の職業につながる場合もあります。

それでいいんだ。大学はどこでもいいから無試験推薦で行けばいい、という考え方もあるでしょう。現在国内570以上ある4年制大学。学校の評価は、所属する学生集団のアベレージの学力と、卒業生集団の質で決まります。やればできる君には、行きたい大学を選ぶだけの学力を身につけてほしいと思います。部活を言い訳にしてはいけません。

最低限英語だけは、やって下さい。

部活は、充実した高校生活を構成する基本要素の一つです。しかし、部活部活でくたびれているから勉強はやれない。これでは本末転倒、だめですよ。せめて、1科目。英語だけはやっておくことです。英語は、基礎をしっかり積み重ねることにより、誰でもできるようになります。慶應進学会の英語学習プログラム **POWER ENGLISH** が、証明しています。

英語をしっかり押さえておけば、部活引退後のスパートが効きます。



高3の夏前に部活引退。それからセンター試験まで5か月半。5教科7科目すべて低レベルからやり始めるのでは間に合いません。1科目得意科目をつくっておくことが大切。私立上位校3教科入試の場合も、同じです。その1科目が英語です。